



社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院

〒640-8158 和歌山市十二番丁45番地

TEL. 073-424-5185

FAX. 073-425-6485



済生会

わかやま

NEWS

第20号

発行日：2011.08

ホームページ：<http://www.saiseikai-wakayama.jp/>

患者さんの権利と責務

1. 平等に良質で適切な医療を受ける権利があります。
2. 医療に際して十分な説明を受ける権利があります。
3. 検査・治療等に際してそれを受ける事を自己の判断のもと承諾あるいは、拒否する権利があります。
4. 医療のどの段階においても他の医師や医療機関の意見を求める権利があります。
5. 自己の病状について情報を得る権利があります。
6. 自己の病状について個人的情報の秘密を守られる権利があります。
7. 医療に関する苦情を申し立てる権利があります。
8. 良質な医療を実現するために、自己の健康状態に関する情報を正確に伝える責務があります。
9. 治療費を支払う責務があります。
10. 良好な療養生活を守るために、定められた諸規則を守る責務があります。
11. 医師・看護師や病院職員の指示に従う責務があります。

— Information —

東日本大震災の医療救援活動に参加して

外科／手術室医長 中村 恭子

3月11日の午後、病棟で仕事していた私は、突然フツとしためまいのような感覚に襲われました。また地震が起こったのだらうなあとは軽く考えていましたが、看護師さんの「患者さんが東北でとても大きな地震があったと言っています。」の一言に、医局に戻り、テレビをつけました。そこには私が見たこともない黒い波が仙台空港をはじめ、東北の海岸線を呑み込んでいく光景が映し出されており、引き波に引きずられていく車や壊れた家には人影がありました。（時間がたつにつれてその部分はカットされていましたが。）解説のアナウンサーの声も震え、これは大変なことが起こっているとつぶやく私の声も震えていたように記憶しています。

その数時間後に、和歌山からのDMATが被災地の岩手県に向けて自衛隊機で出発したと聞き、済生会和歌山病院からは私が行かせていただこうと心に決めました。災害が起こって数日は現場も県当局もかなり混乱しており、最初は3月末に出発と要請されていましたが、最終的に4月21日から25日の5日間を済生会和歌山病院が和歌山県災害救援派遣チームとして岩手県で活動することになりました。

あっという間に震災から1ヵ月半が過ぎ、私と共に余震の頻発する被災地に赴くと言ってくれた心強いメンバー（看護部：児玉看護師長・大江副看護師長、薬剤部：澤本科長、事務部：菌村主任）と、派遣先の情報をチェックしながら、5日間の水や食料を携帯して、予定通り4月21日に伊丹空港から岩手県に向けて出発しました。花巻空港に降り立った私たちは、岩手県北上済生会病院の院長をはじめスタッフの方々の出迎えを受けて、救急車の先導で1.5mの残雪の山を越え、約100Kmの道のりを経て、宮古に着きました。活動の拠点になる豊間根中学校の救護所は津波の被害を受けておらず、ごく普通の田舎の学校でしたが、その体育館には山田町から避難されている方々が130人程度いらっしゃいました。また周辺の個人宅やケアハウスなどには自宅や家族を津波で失った高齢の方々が共同生活されており、その方たちの健康チェックもさせていただきました。東北弁が理解できるかしらと危惧していましたが、関西から来ていると理解されている方は、



ゆっくりと標準語に近い言葉で話して下さいましたので、不自由はありませんでした。ただ、地元の方同士の速い会話はほとんど理解できませんでした。

私が接した患者さんたちは、ほとんどが穏やかな表情で、ご自身の置かれた状況を客観的に話して下さいました。ある高齢の女性は「お薬は無くなってしまったのですか？お薬手帳はありますか？」という私の問いに「あのね、このケアハウスにお世話になるまでに4か所も避難所を転々と移ってきたの。お薬手帳もあったようにも思うのだけれど、どこかにいってしまっ。」私が「では、かかりつけのお医者さんが診療を再開するまでの間の分として、私が処方しますから、またその時になったら相談して下さいね。」と言うと、「まあ、有難うございます。でも、先生の出して下さいのお薬で私これからやっていこうと思います。だって、先生も流されちゃって・・・。」

家族・友人など、この人の周りについさっきまで当たり前のように存在して、当たり前のように日常生活を送っていた人達が、目の前で瓦礫とともに消えていったという過酷な現実を、「流されちゃって」というふうに表示するしかない悲しさ。この方々に対して、私に何が出来るでしょうか？気の利いた事を言うなんて失礼なことではできず、手を握るだけでした。

避難されている人それぞれに、言葉で表現できない悲しさや悔しさがあります。「ひとり残っちゃってもねえ。」と、今まで生きてこられた人生が無駄になったかのような思いからまだまだ抜けられない方もいらっしゃいました。

ただ、私が心打たれたのは、どんなに元気のない人であっても、私達には「遠いところからありがとうね。」と言って下さる事でした。同じ立場に置かれたら、私に同じ事が言えるだろうか・・・？

毎日夕方までこのような診察を続けた後、18時から山田町の役場で会議があったので、一山越えてそちらに向かうのですが、津波の被害のあったところとそれを免れたところでは、雲泥の差がありました。山田町は津波のあと火災が起こった所で、幸いにも高台にあった役場だけが被害を免れ、そこだけ電気が復旧していました。ピラミッドのような防潮堤が破壊され、真っ黒な海が近くまで来ている焼け野原を、雨の降る中、車を走らせるのは恐怖を感じました。海岸線のいたるところに船や破壊された家々が転がっているというテレビの中の光景と、現実との大きなギャップは、海辺にいるのに磯の香りがしないことでした。現場で私達の鼻を刺激したのは、ヘドロと油と建材が焦げた臭い、そして腐敗臭でした。山田町のアスファルトの道には、家々の窓ガラスが火災の熱で溶けて埋め込まれていました。道端には引き取り手のない結婚式の写真などが転がっており、本当に一瞬にして当たり前の生活が、今はさざ波すら立たない海の底に引きずりこまれていったのだと思うと、今生きていることそのものが奇跡の積み重ねではないかと考えさせられました。

立ち木がそのまま炭になっているような火力の強さに驚きながらも、その根元に水仙の新芽がたくましく土を押し上げて地上に顔を出しているのを見たとき、必ずこの地も立ち直って欲しいと心から願いました。同じような海岸線を持つ和歌山は他人事ではありません。今こそ一人一人がそれぞれの立場で災害時にどうすればよいかを考える機会ではないかと感じました。



追記：第1班に引き続き、外科川嶋医師を団長に西原副看護師長・泉看護師・木村薬剤部主任・浦総務課主任の5名が5月9日より13日まで同町で医療救護第2班として活動を行いました。

地域医療連携室からのお願いとお知らせ

平素は多くの患者さんをご紹介頂き誠にありがとうございます。

当院では全科予約制となっているため、ご予約のない患者さんの待ち時間は非常に長くなり大変ご迷惑をかけている状況です。

患者さんの待ち時間の短縮並びに最適な治療をいち早く提供させて頂く為にも、ご紹介患者さんには、是非とも事前にご予約下さいます様、ご協力お願い致します。

<ご紹介・検査や診療予約のご案内>

ファクシミリで 
073-424-5187



患者様は、いつでもいいとおっしゃるからFAXで送ろう。

所定用紙に必要事項をご記入の上ご送信下さい。

空き時間を検索し、予約票を作成します。

依頼用紙がお手元にないときは、お電話を頂ければ早急に送付いたします。

お電話で 
073-424-5186



患者様に希望日があるけれど、この日に空きはあるかしら？

お電話でご依頼内容をお伝え下さい。
その場で検索してお返事いたします。(検査の内容によって若干お時間を頂く場合がございます)

予約が決まりましたら患者様のお名前と生年月日をお知らせ下さい。

※いずれの方法でお申し込みを頂いた場合も予約が確定致しましたら、『診療及び検査予約票』と『予約通知書』をFAXで返送いたします。

返信は15分以内に差し上げるよう心がけています。



地域の診療所の先生方と当院を結ぶ“かけはし”として、スタッフ一丸となり日々頑張っています。

紹介患者さんや当院の地域連携に関する事でお問い合わせなどございましたら、お気軽にご利用下さい。



濟生会和歌山病院外来診療予定表

(平成23年8月1日現在)

区 分		月	火	水	木	金	
内 科	消化器内科	2 診	山原 邦浩	—	山原 邦浩	川口 雅功	
		3 診	文野 真樹	梶野 裕之	川口 雅功	合田 杏佑	文野 真樹
	糖尿病・代謝内科	4 診	巽 邦浩	江川 公浩	荒古 道子	江川 公浩	荒古 道子
	循環器内科	5 診	片岩 秀朗	大鹿 裕之	片岩 秀朗	松本 啓希	大鹿 裕之
脳 神 経 外 科	7 診	山家 弘雄	仲 寛	三木潤一郎	仲 寛	林 靖二	
	8 診	三木潤一郎	—	—	山家 弘雄	—	
外科・心臓血管外科	8 診	—	高垣 有作	戸口 佳代	—	岩橋 正尋	
	9 診	重里 政信	川嶋 秀治	重里 政信	岩橋 正尋	中村 恭子	
	10 診	戸口 佳代	—	川嶋 秀治	—	—	
	12 診	—	—	橋本沙代子	—	古江 隼人	
整 形 外 科	12 診	築瀬 能三	—	新 患 診	—	—	
	13 診	西 秀人	船岡 信彦		松崎 交作	築瀬 能三	
	14 診	中谷 匡登	山崎 悟		山崎 悟	西 秀人	
	30 診	—	—		中谷 匡登	—	
リハビリテーション科	6 階	中川 真里	西田 秀樹	西田 秀樹	中川 真里	担 当 医	
耳 鼻 咽 喉 科	15 診	—	—	医大応援医師	—	—	
腎 セ ン タ ー	2 階	—	—	—	岡本 昌典	—	
眼 科	2 階	医大応援医師	医大応援医師	—	医大応援医師	医大応援医師	
皮 膚 科	2 階	上中智香子	—	—	山本 有紀	—	
泌 尿 器 科	2 階	—	—	佐々木有見子	—	児玉 芳孝	

※内科 (糖尿病・代謝)江川 公浩/荒古 道子/巽 邦浩
 (肝/消化器)川口 雅功/文野 真樹/山原 邦浩
 合田 杏佑/梶野 裕之
 (循 環 器)大鹿 裕之/片岩 秀朗/松本 啓希

*土曜日は休診です。

*腎センターは木曜日午後 保存期外来を実施。

診療案内

診 察 日 : 月~金曜日

受 付 時 間 : 午前8時45分~午前11時 (但し、予約患者様はこの限りにあらず)

休 診 日 : 土・日・祝祭日 (年末年始)

面 会 時 間 : 月~金曜日 午後2時~午後7時 土・日・祝祭日 午前10時~午後7時



交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187